

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-26834

(43)公開日 平成5年(1993)4月6日

(51)Int.Cl.⁵

B 6 5 D 25/42

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

C 6540-3E

審査請求 未請求 請求項の数1(全 2 頁)

(21)出願番号 実願平3-84814

(22)出願日 平成3年(1991)9月20日

(71)出願人 591203093

株式会社フタバ化学

愛知県名古屋市中区栄5丁目8番28号

(72)考案者 志水 徹男

名古屋市中区栄5丁目8番28号 株式会社

フタバ化学内

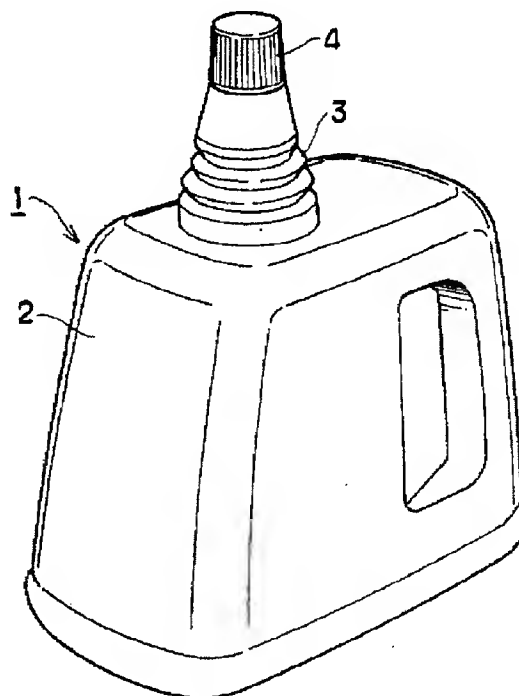
(74)代理人 弁理士 加藤 壮祐

(54)【考案の名称】 液体用容器

(57)【要約】

【構成】 液体用容器1は、液体石鹸やシャンプー等の液体を入れる容器本体2にジャバラ状注口3を一体成形すると共に、該ジャバラ状注口3の先端にキャップ4を嵌めてなることを特徴とする。

【効果】 ジャバラ状注口3を押し縮めた状態で梱包すれば、ジャバラ状注口3が全く邪魔にならず、従来のジャバラ状注口を有する液体用容器に較べて、生産コスト、輸送コスト、保管コストが安くなる。また、容器本体2とジャバラ状注口3が一体で、しかも、ジャバラ状注口3自体にキャップ4が嵌まっているため、従来のように容器本体のキャップとジャバラ状注口を一々付け替える面倒がなく、非常に使い勝手がよい。



1

2

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 液体石鹸やシャンプー等の液体を入れる容器本体に、ジャバラ状注口を一体成形すると共に、該ジャバラ状注口の先端にキャップを嵌めてなることを特徴とする液体用容器。

【図面の簡単な説明】

【図1】 ジャバラ状注口を伸ばした状態を示す液体用容器の全体斜視図である。

【図2】 ジャバラ状注口を押し縮めた状態を示す液体用容器の部分斜視図である。

*【図3】 使用状態を示す液体用容器の部分斜視図である。

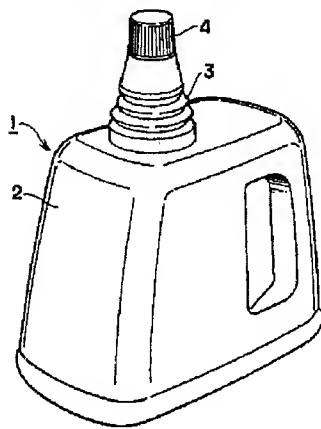
【図4】 他の実施例を示す液体用容器1の部分斜視図である。

【符号の説明】

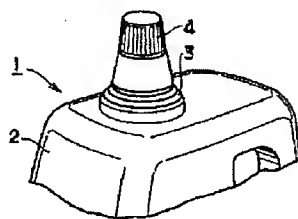
- 1 液体用容器
- 2 容器本体
- 3 ジャバラ状注口
- 4 キャップ

*10

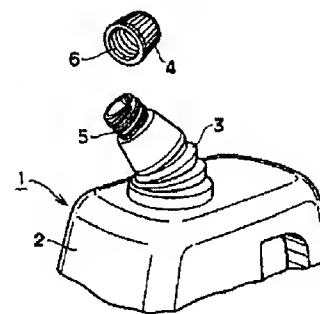
【図1】



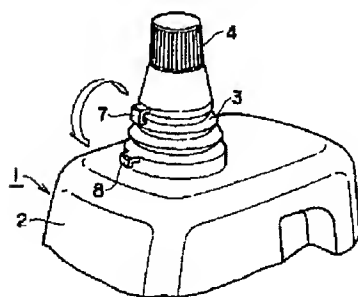
【図2】



【図3】



【図4】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は、液体石鹸やシャンプー等の液体を入れる液体用容器に関する。

【0002】

【従来の技術】

容器本体にジャバラ状注口を取り付けるようにした液体用容器が従来からある。この液体用容器は、ジャバラ状注口が曲がって他の容器に液体を注ぎ易い、という利点を生かし、例えば、液体石鹸やシャンプー等の補充用容器として使用されている。

而して、従来の液体用容器は、容器本体とジャバラ状注口を別々に成形し、容器本体にジャバラ状注口を螺合する構造であった。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】

従来の液体用容器は、容器本体とジャバラ状注口が別体であったため、ジャバラ状注口を容器本体の横にぶら下げて梱包するか、又は、両者を別々の箱に梱包していた。従って、ジャバラ状注口がない普通の液体用容器に比べてかさばり、生産コスト、輸送コスト及び保管コストが高くつく問題点があった。

また、使用に際して、需要者が容器本体のキャップを外し、そのキャップを外した口にジャバラ状注口を付け替える必要があり、しかも、ジャバラ状注口を付けたままではキャップができないため、使用後に再びジャバラ状注口とキャップを付け替える必要がある等、極めて使い勝手の悪いものであった。

【0004】

【課題を解決するための手段】

上記の問題点を解消するため本考案は、図1に示したように、液体石鹸やシャンプー等の液体を入れる容器本体にジャバラ状注口を一体成形すると共に、該ジャバラ状注口の先端にキャップを嵌めるようにした液体用容器を提供するものである。

【0005】

【作用】

図2に示したようにジャバラ状注口を押し縮めた状態で梱包するようにすれば、ジャバラ状注口が全く邪魔にならない。従って、ジャバラ状注口を有する液体用容器でも輸送コスト、保管コストが割高にならない。

また、容器本体とジャバラ状注口が一体で、しかも、ジャバラ状注口自体にキャップが嵌まっているため、従来のように容器本体のキャップとジャバラ状注口を一々付け替える面倒がない。

【0006】**【実施例】**

以下に本考案の実施例を図面を参照しつつ説明する。図1はジャバラ状注口を伸ばした状態を示す液体用容器の全体斜視図、図2はジャバラ状注口を押し縮めた状態を示す液体用容器の部分斜視図、図3は使用状態を示す液体用容器の部分斜視図である。

【0007】

液体用容器1は、容器本体2と、この容器本体2と一体のジャバラ状注口3と、該ジャバラ状注口3の先端に螺合するキャップ4とからなる。容器本体2とジャバラ状注口3は、合成樹脂の一体成形品であり、図1のようにジャバラ状注口3を伸ばした形態で成形する。

図3に示したようにジャバラ状注口3の先端には雄ねじ5が形成されている。一方、前記キャップ4には、内周面に雌ねじ6が形成されており、前記ジャバラ状注口3の雄ねじ5に該キャップ4が螺合する。

【0008】

本考案の液体用容器1は、以上のように構成されているため、図2のようにジャバラ状注口3を押し縮めることにより、嵩ばらずに梱包・輸送ができる。そして、ジャバラ状注口3を押し縮めた状態でキャップ4を外し、容器本体2内に液体を詰める。

また、容器本体2内の液体をポンプ付き液体容器等に詰め替える場合は、図3のようにジャバラ状注口3を適当に曲げれば、液体をこぼさず確実に補充することができる。

【0009】

図4は他の実施例を示す液体用容器1の部分斜視図である。この実施例は、ジャバラ状注口3の上下にフック片7と受け片8を突設し、該フック片7を受け片8に係合させることによって、ジャバラ状注口3を曲げた状態で固定するようにしたものである。なお、ジャバラ状注口3は、その形状と材質によって、図3のように曲がったまま戻らないタイプと、弾性があり曲げてもすぐに戻ってしまうタイプの2種類あるが、前記フック片7と受け片8は、後者のタイプに利用すると特に効果的である。

【0010】

【考案の効果】

本考案の液体用容器は、容器本体とジャバラ状注口を一体成形するようにしたため、ジャバラ状注口を押し縮めた状態で梱包すれば、ジャバラ状注口が全く邪魔にならない。従って、従来のジャバラ状注口を有する液体用容器に較べて、生産コスト、輸送コスト、保管コストを安くすることができる。

また、容器本体とジャバラ状注口が一体で、しかも、ジャバラ状注口自体にキャップが嵌まっているため、従来のように容器本体のキャップとジャバラ状注口を一つ付け替える面倒がなく、非常に使い勝手がよい、等の効果がある。